

はむらの道徳科授業指針

□……チェック欄

教師が道徳科の授業で目指すのは、子どもがよりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うことにあります。道徳性は、**道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度**から成ります。**道徳的判断力**は、それぞれの場面において善悪を判断する能力。**道徳的心情**は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。**道徳的实践意欲と態度**は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味します。一方、子どもは、学びがいのある授業、すなわち、学ぶ喜びのある授業を求めています。「**学ぶ喜びがある**」を目指し、教師が学習指導案の作成段階から共に学び合い、高め合うことで授業力の向上を図ります。

【教師の視点】道徳性を養う

1 取り扱う道徳的価値を明確にする

- ◆ 内容項目の概要及び指導の重点について理解を深める。
(学習指導要領解説「特別の教科 道徳」)

2 自分を見つめさせる工夫を行う

- ◆ 子どもが自己と向き合い、道徳的価値を発展させていくことへの思いや課題に気づき、未来に夢や希望がもてるようにする。
そのため、書く活動等を効果的に取り入れる。

3 発問構成を工夫する

- ◆ 授業のねらいに深く関わる中心発問と、それを生かす前後の基本発問、資料を離れて自分を見つめさせる発問の三つを設定する。

<発問を中核とした授業構想>

- ① ねらいを考える。→② 中心発問を考える。→③ 中心発問を生かすための基本発問を考える。
→④ 自分を見つめさせる発問を考える。→⑤ 終末について考える。

4 多面的・多角的な思考を促進させる

- ◆ 子どもに「ほかに考え方はないか」と思わせる発問を行う。
- ◆ 話し合いを行わせたあと、自己の考えを再構築させる。
- ◆ 交流を通して、多様な考えに触れさせる。

5 道徳的な成長を認め、褒め、励ます

- ◆ 道徳ファイルの工夫等により、学習の積み重ねと成長の度合いが確認できるようにする。
- ◆ 子どもが自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるよう、個人内評価を充実させる。

授業評価、授業観察、協議等の主な観点

□ 発問

子どもが道徳的価値を自分自身のこととして捉えられる問い、多面的・多角的に考えることができる問いになっていたか。

□ 傾聴・受け止め

子どもの発言やつぶやきを傾聴して受け止め、指導に生かしていたか。

□ 教材の取扱い

教師が読んで聞かせるなど、理解が困難な子どもへの配慮ができていたか。

□ 学び合い

子どもが共に考えを伝え合い、学び合えるような指導方法の工夫ができていたか。

□ 自分との関わりで、生き方を見つめさせる

子どもが自分との関わりで自らの生き方を振り返るための手だては有効だったか。

□ 支援を要する子どもへの手だて

特に支援を要する子どもに、適切に対応していたか。

【子どもの視点】学ぶ喜びがある

1 自分との関わりで道徳的価値を理解できる

- ◆ 導入…身近な話題、写真や実物の提示等により理解しやすい。
- ◆ 展開…前半は資料を基に、後半は資料を離れて理解できる。
- ◆ 終末…書くこと等により、自分自身を見つめ直すことができる。

2 教材が魅力的である

- ◆ 人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えてくれる。
- ◆ 悩みや葛藤等の心の揺れを含め、深く考えることができる。

3 深く考えるかがある

- ◆ 読んだだけでは分からない。答えは一つとは限らない。
- ◆ 自分自身の課題でもある。
- ◆ 多様な観点から考えることができる。

4 共に学び合うかがある

- ◆ 多様な意見を聞き、考えを広げ深められる。
- ◆ 自分の生活に生かしていこうとする思いや課題をもてる。

5 認め合い、高め合う雰囲気がある

- ◆ 発言しやすい雰囲気がある。
- ◆ 学習過程の努力を認め、褒め、励ます教師がいる。